

### 栗原市鳥屋崎幼稚園での局所的汚染箇所の同定

石井慶造<sup>1)</sup>、長久保和義<sup>1)</sup>、松山成男<sup>1)</sup>、寺川貴樹<sup>1)</sup>、菊池洋平<sup>1)</sup>

東北大学大学院工学研究科<sup>1)</sup>、東北大学サイクロトロン・RIセンター<sup>2)</sup>

#### 1. 目的

除染を行っても、空間線量率が下がらない場合がある。このような場合は除染した場所の近くに高い線量の場所があることを示唆している。このような場合も含めた除染方法を考察した。

#### 2. 方法

リサーチレポートNo. 28で紹介した高線量場所探査装置を用いて、除染する場所の周りから来る放射線を測定して高い線量の場所を同定する。

#### 3. 結果（平成24年5月12日発表）

平成24年4月3日に栗原市鳥屋崎幼稚園の校庭の除染の前に、校庭の周りから来る放射線を測定した。図1で示すように、校庭の中心に高線量探査装置を置いて、5つの方向に対してセシウム134、137からの約600keVの放射線を測定した。がけの方角および花壇の方角からの放射線は低かったが、雑木林の土手の方角と左上および上部の方角からの放射線が高かった。実際、上部の方角の位置に線量の高い場所が見つかった。震災後、早い時期に校庭の表面の土を集めた場所とことだった。

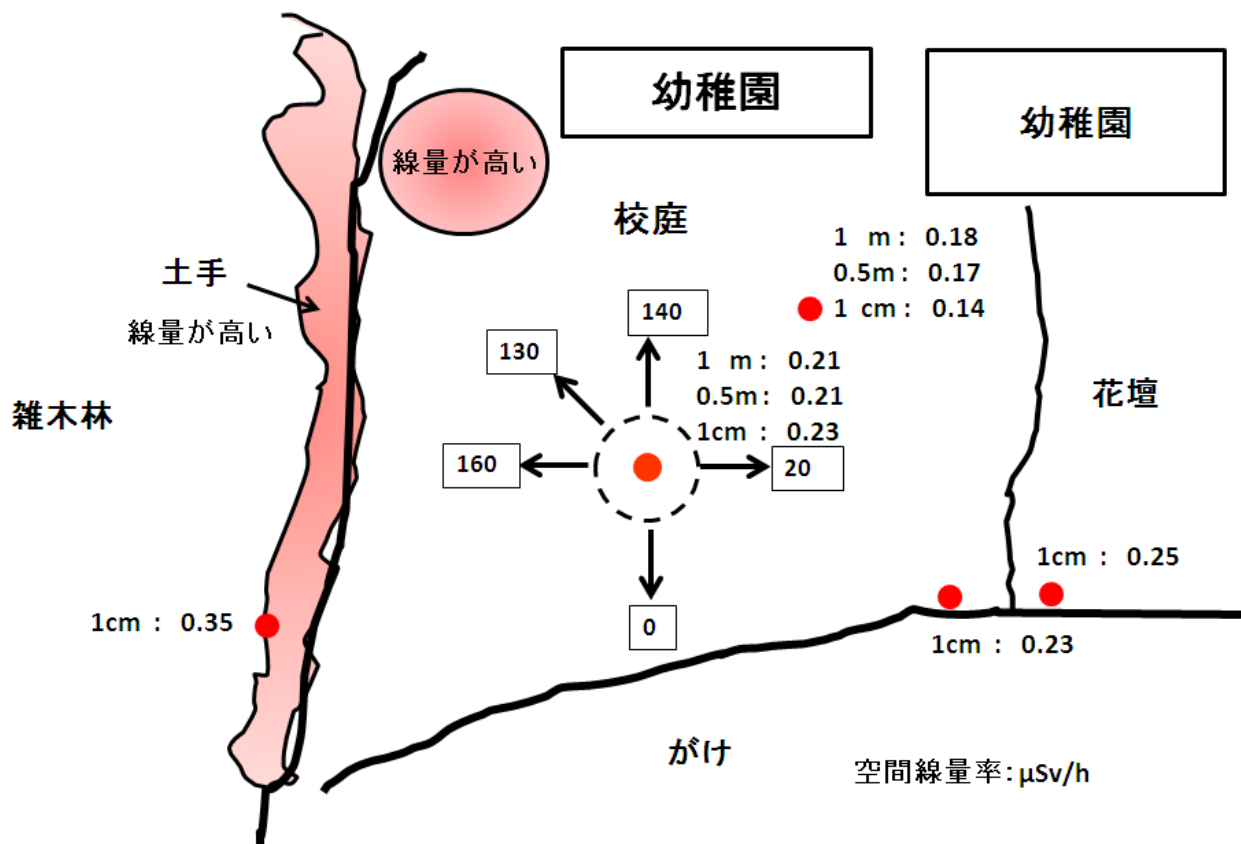


図1 鳥屋崎幼稚園の放射線測定

作成者：石井慶造